

# FD Information

## CONTENTS



授業インタビュー ▶ 1

FD推進 活動レポート ▶ 2

FD研修会（学生の「学びの意欲」向上について考える研修会）の実施

FD交流会（事例発表）の実施

FD講演会の実施

学外FD企画 参加レポート ▶ 3

FD研修会（能動的学修「アクティブ・ラーニング」について考える研修会）の実施について ▶ 4

第19号

2015

January

## 授業インタビュー

本誌を通じて、それぞれの先生方の授業に対する考え方や様々な授業工夫について情報共有を図り、少しでもご参考になればという思いから、授業インタビューを実施しました。

文学部国文学科 講師 宮崎三世 先生

授業名★基礎演習A・B

内容★2回生を対象とした授業です。この授業では、太宰治の作品を読むことで、近代文学に対する理解を深めます。授業の目的は、近代文学研究の初歩を学ぶことです。授業での発表を通して、わかりやすく資料をまとめ、それをもとに人前で説得力を持つように話す力、わかりやすい文章を書く力を養います。

Q 授業で心がけている点を教えてください。

A なによりも受講生の発言をよく聞くことを心がけています。また、文学作品はそれ自体が面白いものですので、作品に語ってもらうに如くはありません。実際、この授業の受講生は文学作品を読んで自分なりにさまざまな発見をし、それを発表してくれています。目標としては、受講生の発言が授業の7～9割を占め、残りは、受講生の発言に関連する内容の教員の発言によって、授業を構成することを目指しています。

Q 特に工夫している点はありますか。

A この授業の目標は、受講生が高等学校までに親しんできたと思われる受け身の学び方とは異なる、積極的な姿勢を養うことであると言えます。みずから問題を発見しその解決の方法を探るという姿勢です。先行研究に学ぶだけでなく、それを批判的に検討して自分の考えを根拠を挙げて述べることもそこに含まれます。またなによりも、発表用資料やレポートを書く際に注意すべきマナーや技術的な注意事項等、この授業を通して身につけるべき点が多岐にわたります。授業の第1・第2回目で、文献の調査・考察方法や発表用資料作成の基礎を講義します。その際、必要最低限の内容を話すことができるように心がけています。受講生に、疑問が生じた際に質問してもらうことと、実際に発表の準備をしてもらうことによって、この授業で伝えたい内容を身につけてもらえるように心がけています。

Q 自発的な学びを促す工夫はありますか？

A この授業では、受講生による発表の後で、他の受講生全員が質問し、発表者がそれに応えます。発表者は、この質疑応答の内容を適宜取り入れ、またその後の教員からのコメントもふまえて、発表用資料の改訂版を再提出し、学期末のレポート作成に備えます。他の受講生からの意見は、発表者にとって大変貴重なものになっているようです。引用の仕方や出典注等の形式に不備があるということや、説明に分かりにくい部分があるということの指摘をもらうだけでも、自分で気づくことの出来なかった点に気づかせてもらえます。具体的に例を挙げてみますと、質問者が自分自身の考えを述べて別の解釈の可能性を示すことで発表者に再検討を促すこともあります。また、「結論で、先行研究をどう考えるのかを述べることにとどまるのではなく、私はこう読むという意見が聞きたい」というような作品全体を視野に入れた意見も出されます。このようにして、授業の回数が進むにつれて、教員からコメントすべきことが特になくなるということさえあるほどです。

Q 最後に一言。

A この授業では、卒業論文に向けて段階的に力を養い、発表やレポートの注意事項や締め切り等を守り、自己管理能力をも身につけることを目指しています。受講生がこの授業に向けた努力や取り組みを適切に評価できるように努めたいと思います。毎回の授業が終わると反省点が山積します。私自身学び続け、授業で学生とともに問い、ともに答えを見つけていけるように努めたいと思います。

## 1 FD研修会（学生の「学びの意欲」向上について考える研修会）の実施

日時：平成26年10月29日(水) 14時45分～16時15分 会場：A校舎301教室

平成25年度に実施したFD研修会の実施後に回収したアンケート結果を踏まえ、学外から講師を招き“モチベーションの低い学生への指導”、“学力レベルに差がある学生を同時に指導すること”等、教育指導上、気になっていることや課題について、今後の授業の進め方や学生対応の参考となる研修会を実施しました。

当日は43名の教員にご参加いただき、冒頭は学生の実態をつかむため、様々な調査データをもとに高校生・大学生の実態について紹介されました。続いて、学生のやる気を引き出す授業の進め方のポイントとして、主にキャリア教育、初年次教育の大学支援でのご経験をもとに、他大学での取り組み事例を交え、成果や課題等についてわかりやすくご紹介いただきました。その後には、各学科・専攻で「学生の学びの意欲向上」に関して成果を上げている効果的な取り組みを共有することを狙いとしてグループワークが行われ、活発な意見交換がなされました。

実施後のアンケートの集計結果では、概ね「良かった」との回答をいただき、また、今後の実施に向けても多くのご意見をいただきました。

いただいたご意見・ご要望等を踏まえ、次回以降の開催に活かしていきたいと考えています。



研修会の様子



グループワークの様子

## 2 FD交流会（事例発表）の実施

日時：平成26年11月12日(水) 14時45分～16時15分 会場：A校舎402教室

各学科・専攻などで実施されている「FDの取り組み」や、各教員が取り組んでいるFDについてその事例を発表し、他学科・専攻の取り組みの情報共有及び参考とするため、「授業の工夫について」をテーマとしたFD交流会（事例発表）を開催しました。

事例発表①では、発達教育学部教育学科の松岡靖准教授より「Prezi(プレゼンテーションソフト)を用いた講義内容の焦点化を図る指導方法」と題し、PowerPointとは異なるPreziを活用した授業の進め方について、また、学生の興味・関心持続のための工夫等について、実際にPreziを使用してお話いただきました。

続いて事例発表②では、家政学部食物栄養学科の川添禎浩教授より「管理栄養士養成課程における「環境と健康」の教育について」と題し、管理栄養士国家試験の受験資格を取得するための講義科目での授業の進め方や問題点、授業アンケート集計結果から見る成果や課題等についてのお話をいただきました。また、大人数授業では困難であるが、過去に活用され学生から好評を得ていた学生全員に毎回コメントをつけて返却する「コミュニケーションカード」についてご紹介いただきました。

なお、当日は36名の教職員の参加がありました。次年度もテーマを設定し、本交流会を継続していきたいと考えています。ご要望など、どうぞお気軽にセンターまでお寄せください。



事例発表① 松岡先生



事例発表② 川添先生

## 3 FD講演会の実施

日時：平成26年12月10日(水) 14時45分～16時15分 会場：Q校舎301教室

昨年実施した「FD講演会に関するアンケート」を参考に、次回聞きたいテーマとして要望の多かった「アクティブ・ラーニング」をテーマに取り上げ、外部講師を招いて講演会を実施しました。

当日は、学校法人濱名学院理事長・関西国際大学学長の濱名篤先生を招き「グローバル化時代の教育成果とアクティブ・ラーニング」と題して、知識偏重型教育から、課題発見・解決能力を身につけた教育、アクティブ・ラーニング（能動型で振り返りを重視する学習）や教室外プログラム（スタディアブロード、インターンシップ、サービ斯拉ーニング）への転換に向けての背景、現状、課題等について講演いただきました。

また、アクティブ・ラーニングと学修成果を取り巻く環境について、文部科学省の大学教育改革政策状況や実際の大学教育の状況を交えたお話もいただき、講演後の質疑応答では活発な意見交換がなされました。



濱名先生ご講演の様子

当日は38名の教職員にご参加いただき、実施後のアンケート結果においては「アクティブ・ラーニングの意味や効果等を理解することができた」との回答や「教育システムの背景を理解することができた」との感想も寄せられました。

今後もFDに関するテーマを設定し、外部講師を招いた講演会を実施する予定です。ご要望など、どうぞお気軽にセンターまでお寄せください。

### ★学内WEBにて当日の収録内容を公開しています！

当日の講演会の内容について、ビデオ収録を行いましたので、学内WEBの「教職員専用」ページにて公開しています。ぜひご活用ください。

※コンテンツの視聴にはプレーヤーソフトウェア (Microsoft Silverlight) が必要です。

教職員専用をクリック



## 学外FD企画 参加レポート

FD推進センターでは、FDに関連したセミナー、シンポジウム等の開催について案内しています。実際に参加された先生に、当日の様子や感想をお伺いしました。ぜひ、今後の参考としてください。

### ●第14回山形大学FD合宿セミナー「相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして」

日程：平成26年9月8日(月)～9日(火) 会場：山形大学蔵王山寮

主催：山形大学教育開発連携支援センター

発達教育学部教育学科教育学専攻 表 真美 教授



今回のセミナーの目的は「個々の教員が、大学を支えることの意義と位置付け、教育の基本的構成要素、各授業科目の存在意義、授業設計、成績評価法・授業方法などについて、あらためて主体的に検討し、再構築すること」であった。北は青森の八戸学院大学、南は沖縄県立芸術大学から、42名の教員（約半数は山形大学教員）が参加した。京都薬科大学はここ数年毎年参加しているとのことであった。1日半、休みなしに分刻みに設けられた下記のスケジュールに従って、年齢層の異なる参加者と共に活動し、大変充実した時間を送ることができた。

第1日目		第2日目	
14:30～15:00	オリエンテーション・アイスブレイキング	7:30～8:30	朝食・部屋の清掃・部屋退出
15:00～16:30	プログラムⅠ「大学へのニーズと課題」	8:30～10:00	プログラムⅢ「科目設計1:授業と目標、内容の作成」
16:40～18:10	プログラムⅡ「理想の大学をつくる」	10:10～11:40	プログラムⅣ「科目設計1:シラバスの完成」
18:10～20:00	夕食・入浴	11:40～12:20	修了式
20:00～22:00	懇親会	12:20～14:30	昼食・交流

#### セミナーの形態

セミナーは、グループ学習形式の体験型で、参加者により運営された。年齢・性別・専門に偏りが無い6つの班が主催者によりあらかじめ編成されていた。4つのプログラムごとに、各班に毎回司会者、記録係、発表者を置き、各プログラムは①担当講師による作業内容の説明(10分)、②班ごとの作業(40分)、③発表(4分×6班24分)、④全体討論(16分)という構成で行われた。各プログラムの終了時には、各参加者が各班の発表をに対して5段階評価を行った。研修終了後、各班の獲得した合計点の順位により、表彰が行われた。

#### セミナー参加の成果

大学に望まれることは何か、理想の大学、そして全世界から注目されるような授業とその内容・評価方法について、班の6名で協力して作業し、課題に対する答えをまとめてプレゼンする活動を通して、大学・大学教育のあり方、授業の手法などについて、自らの考えを確認するとともに、他の教員の多様な見方を知った。また、アクティブラーニングを自ら体験することで、その利点や課題、手法なども理解することができた。FDには、教員のモチベーションと教員相互のコミュニケーションが肝要であることをあらためて痛感した。

## F D 研修会（能動的学修「アクティブ・ラーニング」について考える研修会）の実施について

平成24年8月28日付、中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」において、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が求められています。

これまでも学外より講師を招き、講演会・研修会等を実施してきましたが、改めて「アクティブ・ラーニング」に関する知見を高め、指導方法を学び、検証を行っていくことで、学生の主体性・積極性を引き出す授業運営の参考とするため、グループワークを取り入れた研修会を実施します。所属学部の研修会に必ず参加してください。

### 1. 実施日時

日 時	グ ル ー プ	会 場
2月18日(水) 15:00～16:30	発達教育学部（教育学科、児童学科）	B校舎1階112会議室
	現代社会学部（現代社会学科）・法学部（法学科）	A校舎5階会議室
2月20日(金) 15:00～16:30	文学部（国文学科、英文学科、史学科、外国語準学科）	J校舎5階501会議室
3月6日(金) 15:00～16:30	家政学部（食物栄養学科、生活造形学科、生活福祉学科）	B校舎1階114会議室

※開始時間は、教授会開催時間により変更する場合があります。

### 2. 実施内容

グループ（4グループ）ごとに、グループワークやアクティブ・ラーニング実践事例の紹介・成果等を交えた研修会を行います。

### 3. 参加対象

大学・短期大学部全専任教員

※図書館司書課程・宗教文化研究所教員は、希望するグループの研修会に参加してください。

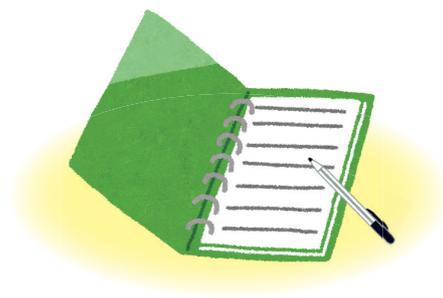
※短期大学部所属教員は、文学部の研修会に参加してください。

※所属学部の研修会に参加できない場合は、別グループの研修会に参加してください。

### 4. 担当講師

株式会社K E I アドバンス [河合塾グループ]

グ ル ー プ	講 師
文学部、現代社会学部・法学部	河合塾 教育研究部 赤塚 和繁 氏
発達教育学部、家政学部	河合塾 現代文・小論文科 講師 竹内 幸哉 氏



おわりに

F D 推進にかかる取り組みについて、今後も随時計画・実施を進めていきたいと考えています。ご意見・ご要望などがございましたら、お気軽に事務局（F D 推進センター）までご連絡ください。

また、F D 推進委員会の委員の先生方を通じてご案内しております、他大学・団体等が開催するセミナーやシンポジウム等につきましても、F D への理解を深める一助として、是非ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。

- ◆発行日  
平成27年1月31日
- ◆発行者  
京都女子大学F D 推進委員会
- ◆事務局  
教務部学部事務課 F D 推進センター  
TEL : 075-531-7045、9121  
E-mail : gakuji@kyoto-wu.ac.jp (学部事務課)  
nisiyama@kyoto-wu.ac.jp (担当：西山)

